

令和5年度

遺跡報告会

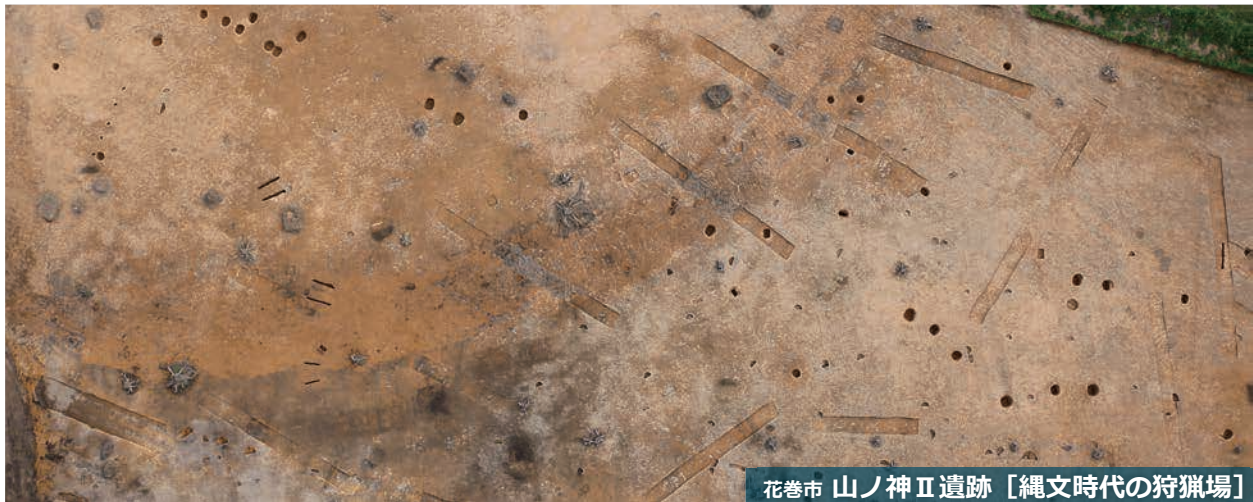
(公財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター

令和6年
1月28日 [日]

会場

いわて県民情報交流センター
アイーナ7F 小田島組☆ほ〜る

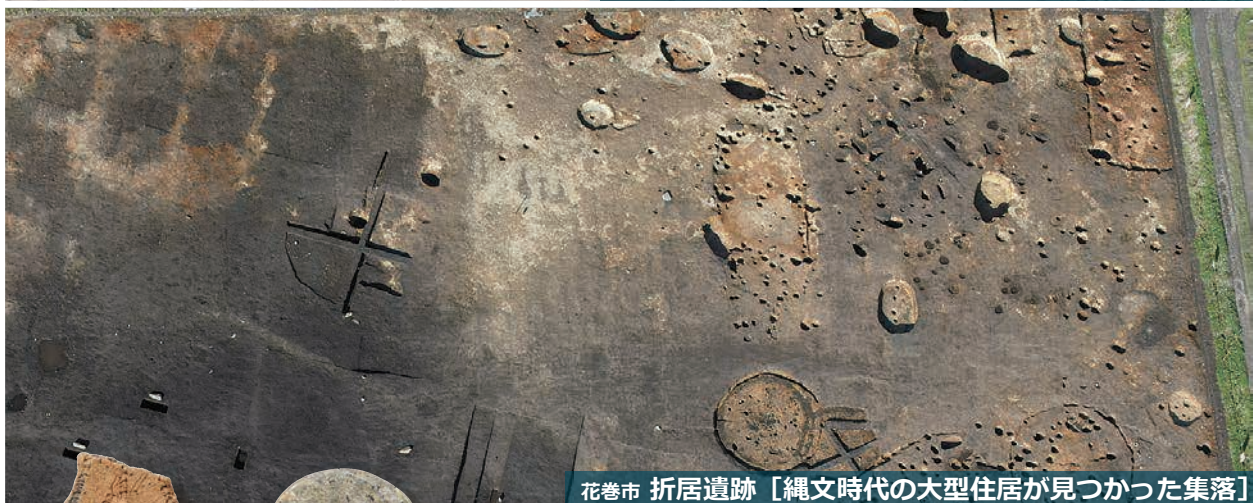
入場無料



花巻市 山ノ神Ⅱ遺跡 [縄文時代の狩猟場]



北上市 広表遺跡 [縄文時代～平安時代の集落と狩猟場]



花巻市 折居遺跡 [縄文時代の大型住居が見つかった集落]



折居遺跡
土偶



折居遺跡
けつじょうのみかざり
珠状耳飾

遺跡報告に係わる遺物を展示中!

開場 12:20 ~ 16:20 閉場まで



(公財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター
キャラクター
しだないさん

令和5年度の調査概要

今年度の発掘調査は、当初計画9遺跡、総面積128,874㎡でスタートし、その後の調整を経て最終的に10遺跡、127,210㎡が対象となりました。前年度と比較すると、調査面積はおよそ1.7倍になっています。各遺跡の所在地は、県央部を主体として沿岸地区の3遺跡を加え、県内4市1町1村に及びました。

縄文時代

花巻市折居遺跡では、縄文時代前期から中期初めにかけての大型住居や貯蔵穴などが多数見つかりました。これらの遺構群は、検出された状況から環状をなす可能性があり、次年度以降も継続される調査が待たれます。沿岸部では、釜石市太田林遺跡や野田村中平遺跡から、早期～前期の竪穴住居やそれに伴う遺物が出土しました。

この他、花巻市山ノ神Ⅱ遺跡、北上市岡田遺跡・広表遺跡からは数多くの落とし穴が確認され、3遺跡での総数は、360基以上を数えます。いずれにおいても平面形には溝状と円形の2種類があるほか、仕掛けに関する痕跡に共通性がみられる部分もあることから、内陸部における狩猟の様子を詳しくうかがうことができます。住田町の中平Ⅲ遺跡では、次年度の本調査に向けた内容確認調査を実施し、晩期の遺構・遺物が見つかります。

弥生時代

今年度も、埋没した沢から弥生時代中期の遺物が大量に出土した花巻市天ヶ沢遺跡の継続調査を行いました。これらの中には、佐渡を含む北陸地方との関連を示す碧玉製の管玉やシカ類と思われる動物形の土製品数点など、極めて特殊な遺物も見られます。

平安時代

平安時代では、関東系と言われる全長の短いカマド施設をもつ竪穴住居が数棟見つかった岡田遺跡、鉄関連の遺構として炭窯9基が確認された花巻市山ノ神Ⅱ遺跡が挙げられます。また、昨年度に引き続き調査を行った奥州市中林下遺跡では、平泉藤原氏時代の溝や土坑、中・近世の遺構が確認され、集落の広がりや性格がさらに明らかになりました。

中世

奥州市作屋敷遺跡からは、三期にわたる12棟の掘立柱建物とそれらに付属する池状の施設や井戸、区画溝など、一連の遺構群が確認されました。出土遺物から、室町時代14～15世紀代に属するものと考えられます。

まとめ

今年度の調査成果については、①縄文・平安時代の集落のあり方 ②弥生時代中期の出土遺物の内容 ③室町時代の屋敷構造、という3点にまとめることができます。次年度以降も新たな成果が報告できるよう、発掘調査に力を尽くしたいと思います。

参事兼調査課長 濱田 宏

令和5年度 発掘調査遺跡一覧

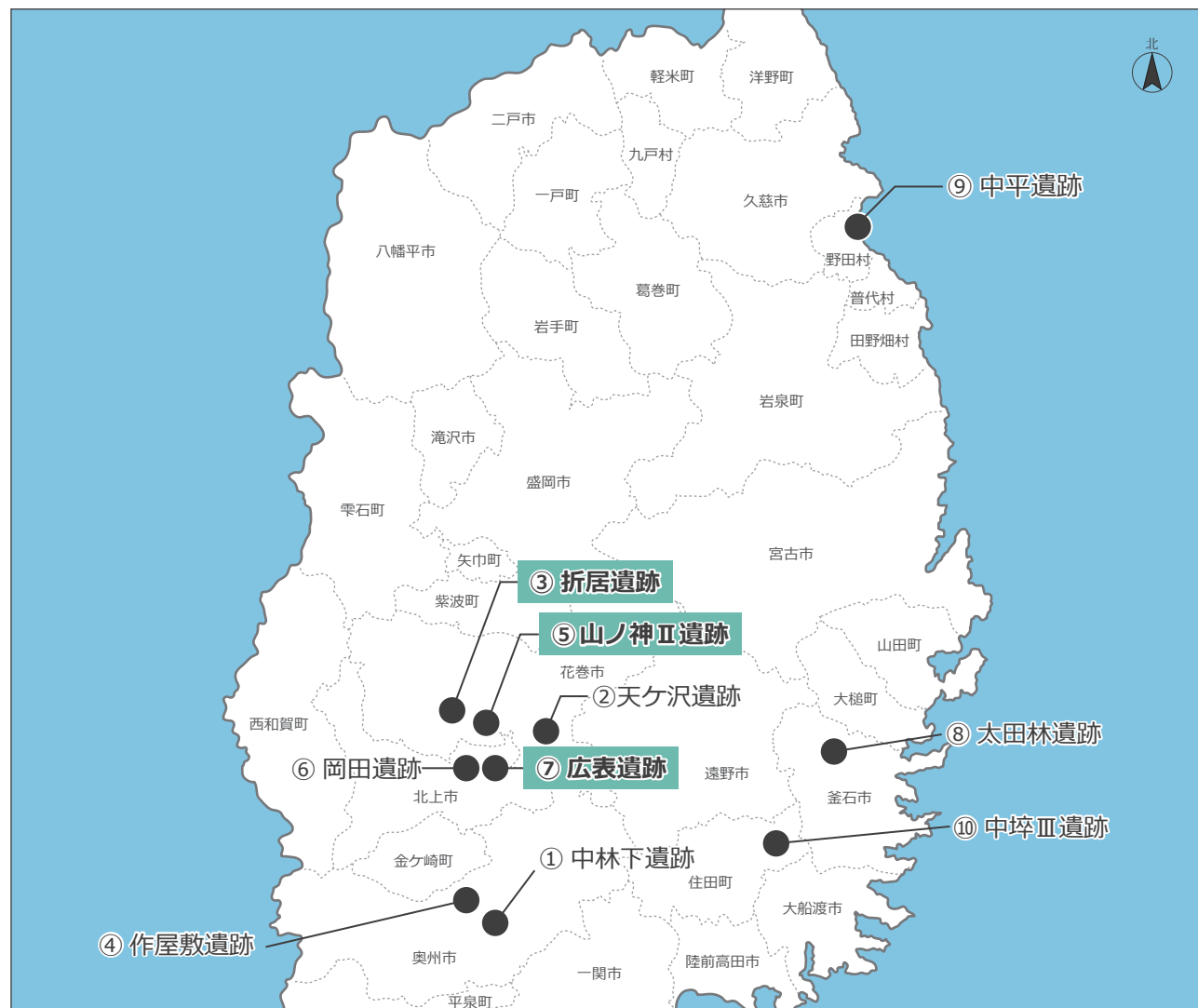
報告遺跡

No.	遺跡名	所在地	主な時代	調査期間	開発事業名	調査面積 (m ²)
1	なかばやしした 中林下遺跡	奥州市	平安・中世・近世	9/4～10/31	一般国道4号水沢東バイパス	1,820
2	あまがさわ 天ヶ沢遺跡	花巻市	弥生	4/17～7/14	経営体育成基盤整備事業(砂子地区)	2,200
3	おりい 折居遺跡	花巻市	縄文	7/18～11/30	農業農村整備事業(農業競争力強化基盤整備事業経営体育成型 太田地区)	2,036
4	さくやしき 作屋敷遺跡	奥州市	中世	10/16～12/21	経営体育成基盤整備事業(若柳中部地区)	1,465
5	やまのかみに 山ノ神Ⅱ遺跡	花巻市	縄文・平安	4/7～11/30	(仮称)花南産業団地整備	61,875
6	おかだ 岡田遺跡	北上市	縄文・平安・近世	4/10～11/30	北部産業業務団地整備	40,100
7	ひろおちて 広表遺跡	北上市	縄文・平安	4/10～10/31	北上工業団地整備	15,226
8	おおたばやし 太田林遺跡	釜石市	縄文	5/1～8/31	橋野地区消防屯所建設	488
9	なかたい 中平遺跡	野田村	縄文・平安	4/6～6/9	野田小学校整備	2,000
10	なかぞねさん 中埜Ⅲ遺跡	住田町	縄文	11/1～11/30	林業関連施設建設(仮)	表土掘削まで 次年度本調査

計10件10遺跡

総計 127,210

遺跡位置図



岩手県の遺跡略年表

年代	時代区分	主な事柄	報告遺跡	県内の主な調査遺跡	主な国・県指定史跡
BC 12,000年	旧石器時代	大型動物が息絶する		遠野市金取遺跡 金ヶ崎町柏山館跡 西和賀町大台野遺跡	
		気候が温暖になる		久慈市早坂平遺跡	
5,000年	縄文時代	土器の使用が始まる		岩泉町竜泉新洞遺跡 盛岡市大新町遺跡 軽米町馬場野Ⅱ遺跡	
				住田町蛇王(蔵王)洞穴遺跡 盛岡市芋田沢田Ⅳ遺跡 二戸市馬立Ⅰ遺跡	(県)大船渡市関谷洞窟 (国)遠野市綾織新田遺跡
		大規模なムラができる 漆の本格的な使用が始まる	花巻市 山ノ神Ⅱ遺跡 北上市 広表遺跡	宮古市千鷲遺跡 山田町沢田Ⅰ遺跡 八幡平市長者屋敷遺跡 盛岡市上八木田Ⅰ遺跡	
			花巻市 折居遺跡	普代村力持遺跡	(国)奥州市大清水上遺跡
				九戸村田代遺跡 岩手町秋浦Ⅰ遺跡 紫波町西田遺跡 盛岡市山王山遺跡 盛岡市柿ノ木平遺跡	(国)大船渡市蛸ノ浦貝塚 (県)盛岡市大館町遺跡 (国)宮古市崎山貝塚 (国)一戸町御所野遺跡
				洋野町西平内Ⅰ遺跡 平泉町新山権現社遺跡 軽米町長倉Ⅰ遺跡 盛岡市川目A遺跡	(国)北上市榊山遺跡 (県)田野畑村館石野Ⅰ遺跡 (国)北上市八天遺跡
3,000年	中期		大船渡市上鷹生遺跡 八幡平市曲田Ⅰ遺跡 北上市大橋遺跡	(国)大船渡市下船渡貝塚 (国)大船渡市大洞貝塚	
1,000年	晩期	亀ヶ岡文化が広がる		北上市金附遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢市湯舟沢遺跡 岩泉町赤穴洞穴遺跡	
300年	弥生時代	稲作が始まる 金属器の使用			
AD 300年		卑弥呼が邪馬台国王となる			
400年	古墳時代	大和朝廷が国家統一を進める 古墳が各地につくられる		奥州市高山遺跡	
600年		仏教が伝わる		奥州市中半入遺跡 北上市猫谷地遺跡 奥州市膳性遺跡 宮古市長根Ⅰ遺跡 山田町房の沢Ⅳ遺跡	(国)奥州市角塚古墳 (県)矢巾町藤沢蝦夷森古墳 (国)北上市江釣子古墳群 (県)岩手町浮島古墳群
		大化の改新		奥州市杉の堂遺跡	(県)岩手町仙波堤遺跡
800年	奈良時代	奈良に都がつくられる(平城京)			
1,000年		平安時代	京都に都がつくられる(平安京) 胆沢城や志波城がつくられる 各地に荘園が広がる	花巻市 山ノ神Ⅱ遺跡 北上市 広表遺跡	盛岡市台太郎遺跡 軽米町皂角子久保Ⅳ遺跡 宮古市島田Ⅱ遺跡 二戸市飛鳥台地Ⅰ遺跡 一関市河崎の柵疑定地
1,200年	鎌倉時代		前九年合戦 後三年合戦		奥州市接待館遺跡 奥州市衣の関道遺跡 平泉町柳の御所遺跡
1,400年	中世	奥州藤原氏の滅亡 鎌倉幕府の成立		盛岡市紫Ⅲ遺跡	
1,600年		室町時代	元寇 室町幕府の成立		花巻市笹間館跡 一戸町一戸城跡 紫波町柳田館跡 久慈市久慈城跡
1,800年	近世		応仁の乱		遠野市篠館跡 宮古市山口館跡 奥州市北館跡
1,900年		近代	豊臣秀吉が全国統一 関ヶ原の戦い		
	江戸時代		江戸幕府の成立 鎖国が始まる		紫波町栗田Ⅲ遺跡
		明治	大政奉還 明治維新		遠野市佐比内鉄鉱山跡
					住田町子銅沢Ⅱ遺跡

遺跡紹介

報告遺跡以外にも、多くの発掘調査を行っております。調査の内容を簡単にご紹介します。

P.2に遺跡No.と遺跡位置図

遺跡No. 1



なかばやしした

中林下遺跡

奥州市[平安時代・中世・近世]

令和4年度からの継続調査で、古代から近世にかけての遺構・遺物が見つかりました。写真は平安時代と中世の溝が交差している様子です。他にも中世の墓などが確認されました。

遺跡No. 2



あまがさわ

天ヶ沢遺跡

花巻市[弥生時代]

令和4年度からの継続調査で、今年度も調査区中央に見つかった埋没した沢跡から、弥生時代中期を中心とする遺物が多く見つかりました。小高い丘の上に、この時期の集落が広がっていると推測されます。

遺跡No. 4



さくやしき

作屋敷遺跡

奥州市[中世]

過去の調査では奈良時代と平安時代の集落が確認されましたが、今回調査した遺跡北西部からは中世の居館と考えられる掘立柱建物群や井戸、池のほかにこれらをめぐる可能性が高い溝が見つかりました。

遺跡No. 6



おかだ

岡田遺跡

北上市[縄文時代・平安時代・近世]

令和4年度からの継続調査で、前年度調査区西側から縄文時代の落とし穴と平安時代の集落域が見つかりました。なかでも、落とし穴は2カ年で約450基を確認しており、長期間にわたり狩猟の場として利用されてきたことが分かります。

遺跡No. 8



おおたばやし

太田林遺跡

釜石市[縄文時代]

令和4年度からの継続調査で、前年度に引き続き縄文時代前期の方形及び大型竪穴住居とこれに伴う貯蔵穴が見つかりました。大型竪穴住居は、作業員の皆さんが入っても余裕のある広さです。

遺跡No. 9



なかたい

中平遺跡

野田村[縄文時代・平安時代]

令和3・4年度からの継続調査で、縄文時代前期と平安時代の集落、縄文時代の落とし穴が見つかりました。これまでの調査で縄文時代は集落から狩猟場への変遷が捉えられており、狭い丘陵上を巧みに利用していることがうかがえます。

遺跡No. 10



なかぞねさん

中埦Ⅲ遺跡

住田町[縄文時代]

今年度は表土剥ぎと一部の遺構検出を行い、縄文時代晩期の遺構・遺物を確認しました。写真は、縄文人が石を並べた配石遺構の一部と考えられます。本格的な調査は、次年度に実施する予定です。



遺跡全景(南から)

はじめに

山ノ神Ⅱ遺跡は、花巻市山の神地内に所在し、豊沢川南岸の中位段丘上に立地しています。花巻駅からは南に約3.3kmのところにあります。

花巻市(仮称)花南産業団地整備事業に伴って発掘調査が行われ、縄文時代や平安時代の遺構や遺物が見つかりました。今回は主に縄文時代の様相について報告します。

遺跡の内容

見つかった主な遺構は、縄文時代の落とし穴188基、貯蔵穴6基、土坑1基、平安時代の炭窯9基、時期不明の焼土1基などです。遺物は、縄文時代の土器片や石器類が十数点出土しました。

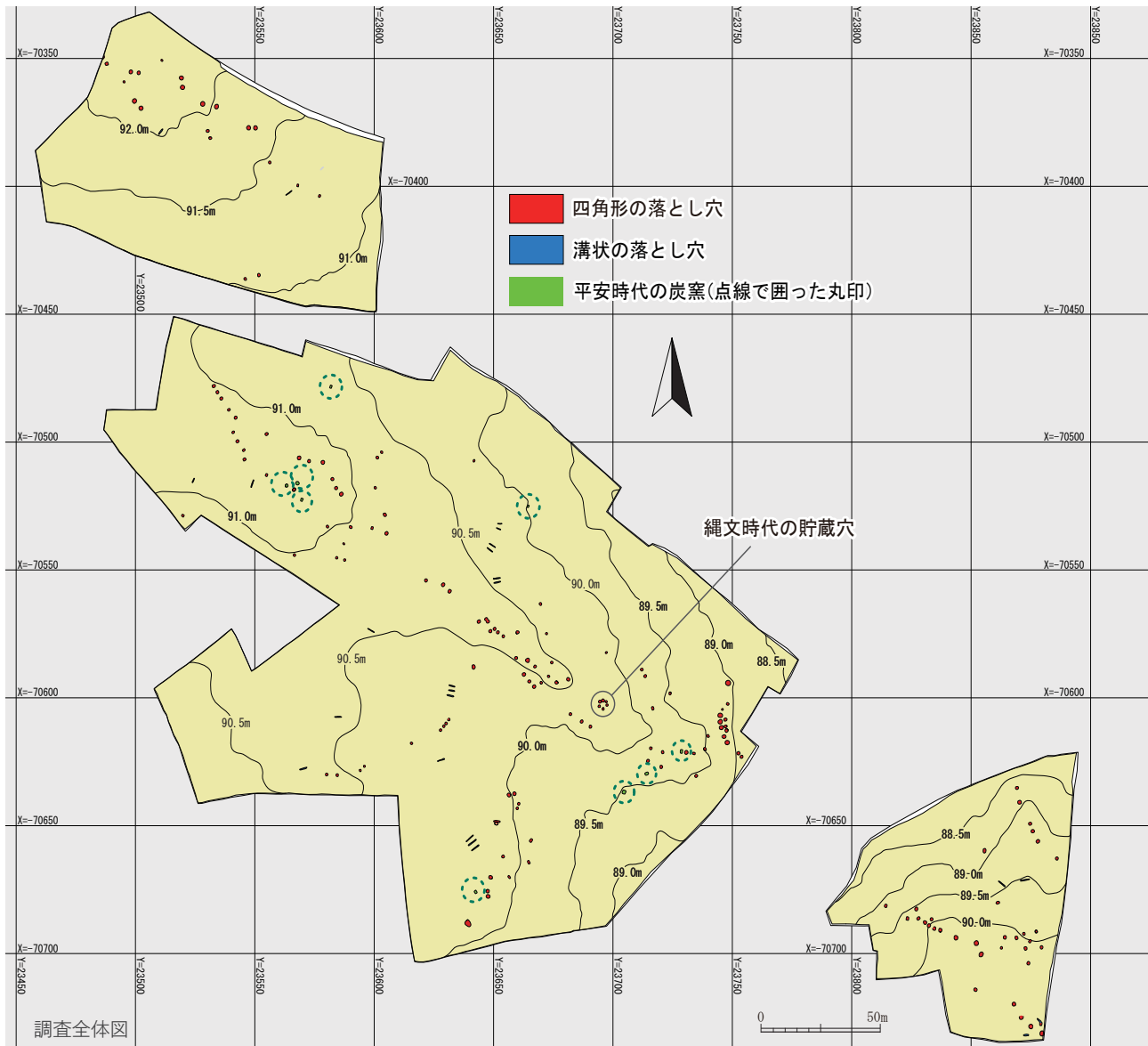
縄文時代の落とし穴は、平面形が四角形と溝状のものに分けられます。四角形の落とし穴は164基あり、調査区の広い範囲から見つかっています。長軸方向で1.6~1.3m、短軸方向が1.0~0.7mのものが中心ですが、最大のものは2.2×1.9mあります。これらの落とし穴群は同時に存在していたのではなく、時期差、変遷が想定されますが、全体としては北西-南東方向に列を成す



四角形の落とし穴



落とし穴の底に小さな穴を伴う



とわだちゅうせり
 ように分布しています。また、十和田中掬火山灰(約6,200年前に降下)に覆われているものが多い、落とし穴が使われていた時期がこれによって想定可能となったことも成果の一つといえます。溝状の落とし穴は24基見つか、長軸方向で3.6～1.9m、短軸方向が0.7～0.5mあります。2～3基が並んで造られているもの、単独であるものなどが見られます。四角形の落とし穴より時期は新しいようです。貯蔵穴は調査区の中央付近からまとまって見つかりました。短期間ですが小規模な集落があったことが分かりました。

■ おわりに

今回の調査で、落とし穴の存在から縄文時代の前期以降、狩猟場であったことが明らかになりました。見つかった落とし穴は188基にのぼり、長期間にわたり狩猟が繰り返されていたようです。また、竪穴住居は見つかりませんが、貯蔵穴が複数確認されたことから、短い期間、小規模な集落があったことも分かりました。

平安時代の炭窯は地面を四角形に浅く掘り下げただけの簡素なつくりのものです。この炭窯の中には10世紀初め頃に噴火したとされる十和田a火山灰が見られました。



主任文化財専門員 杉沢 昭太郎 並んで見つかった溝状の落とし穴



上空から見た広表遺跡(北から)

はじめに

広表遺跡は北上市村崎野21地割地内に所在し、北上川の支流である飯豊川右岸の砂礫段丘上に立地しています。調査地点は段丘北端部の斜面地にあります。この度、北上工業団地整備事業に伴って、15,226㎡の発掘調査を行いました。



縄文時代前期の竪穴住居

遺跡の内容

主な遺構は縄文時代の竪穴住居5棟、落とし穴61基、土坑26基、焼土遺構3基、平安時代は竪穴住居1棟で、他に時期不明の柱穴状土坑21個などです。

集落の中心となる竪穴住居5棟は、いずれも調査区東側で見つかりました。主体となる時期は、縄文時代前期と考えられます。形状は楕円形ないし長方形で、規模は最大で長さが7mを超えるものもあります。住居の床面には屋根を支えるための柱穴や調理を行った炉跡と考えられる焼土、住居の壁際には壁を保護するための材を埋め込むために掘られた

と考えられる溝などの痕跡が確認されました。また、住居内からは、土器や石器も出土しています。

平安時代の竪穴住居は調査区東側の平坦部で、縄文時代前期の竪穴住居と重なって1棟見つかりました。検出した場所から、床面までの深さは約70cmあります。埋まった土の中からは土師器・須恵器などの土器のほか、砥石など生活に使用された遺物が出土しています。東壁のやや南寄りの場所にカマドが設けられ、付近の床面の一部は焼けて赤く変色していました。また、煙を屋外に排出するための煙道がトンネル状に掘られ、住居の壁面から約80cm東側の場所に煙を出す穴が確認されました。時期は埋まった土の中に915年に降下した十和田a火山灰が堆積していることから、竪穴住居の年代は915年より古いことが分かりました。

今回の調査で最も多く見つかった遺構は落とし穴で、形状は円形・楕円形・溝状など様々です。これらからは遺物が出土していないために大半のものが時期の詳細が分かりませんが、いくつかの落とし穴には、約6,200年前に降下した十和田中掬火山灰と考えられる明黄褐色ブロックを含むものがあり、縄文時代前期前葉以前の可能性があります。



縄文時代の竪穴住居の床面から見つかった土器



平安時代の竪穴住居



縄文時代の落とし穴

■ おわりに

今回の調査で、遺跡の立地する場所が縄文時代から平安時代までの間、集落や狩猟場として利用されてきたことが分かりました。飯豊川右岸の段丘下流域には、他にも本遺跡と同じ時代の遺構や遺物が見つかる成田遺跡や成田岩田堂館跡などがあり、周辺地域一帯が縄文時代以降、断続的に生活の場として利用されていたと考えられます。

主任文化財専門員 溜 浩二郎



調査区遠景(南東から)

はじめに

折居遺跡は、花巻市太田地区に所在し、遺跡の西側から北側を周り込むように流れる寒沢川さむさわによって形成された、標高約120mの段丘上に立地しています。この段丘は、寒沢川の流れる北西側に向かって緩やかに傾斜しており、地形に合わせて造成された平坦な田面が数枚にわたって広がっていました。発掘調査は、農業農村整備事業に関連して実施し、今年度は主に調査対象区域東側の調査を進め、2,036㎡の調査が終了しました。

遺跡の内容

今回の調査では、段丘の頂上部にあたる北側を主体に竪穴住居10棟、大型住居6棟、竪穴状遺構13基、貯蔵穴2基、墓坑1基、土坑29基などの遺構が見つかり、縄文時代前期末から中期初頭にかけて集落が営まれていたことが分かりました。また、調査区中央を北西から南東に横切る沢跡を挟んで南側からは、縄文時代前期初頭と考えられる円形の落とし穴5基が一定の間隔で並ぶように見つかり、狩猟場として機能していたことも分かりました。

なかでも特筆すべきは、縄文時代前期末頃の大型住居が複数棟見つかった点です。ここで言うところの大型住居とは、長辺8m以上の規模で、平面形が長楕円形や長方形をした竪穴のことを指します。県内では、縄文時代前期初頭から中期前半の遺跡で、類例が見られます。建物が大きいため、屋



縄文時代前期末～中期初頭の集落



大型住居全景



大型住居から出土した大量の縄文土器

根を支える柱も多く、中央の軸線上に炉(火を焚いた跡)が複数並ぶのもこの遺構の特徴です。また、同じ場所で、建物の作り替えや拡張などを行うためか、壁溝や柱穴が何重にもめぐる例もいくつか見られます。従来は、集会所や宴会場のような施設ではないかとされてきましたが、近年では、複数世帯が同居した長屋のような建物とする説が有力視されています。

集落内における分布の傾向としては、集落の核心部により近いと考えられる北東部に軸線方向をずらすような形で大型住居が分布し、その南側の沢跡周辺に、径5～6m前後の規模の円形・楕円形の竪穴住居が分布する傾向があるようです。

遺物は、大木6式と呼ばれる縄文土器が沢跡のほか、廃絶後の竪穴住居や土坑から大量に見つかり、40ℓのコンテナ換算で75箱出土しています。石器では、石鏃や石匙をはじめとした剥片石器のほか、石錘や敲磨器などの礫石器が見つかり、狩猟や漁労を中心とした採集生活を送っていたことがうかがえます。土偶や球状耳飾などの土製品・石製品も少数ながら見つかりました。



墓坑から出土した球状耳飾

おわりに

花巻市内では、大型住居が見つかった遺跡は今までで3例ほどと数が少なく、太田地区での発見例は今回の調査が初めてで、縄文時代の地域社会を解明するうえで貴重な調査成果といえます。集落内の遺構の分布にまとまりが見られることから、意図的な遺構配置を持った集落であった可能性が高いと考えます。調査は、次年度も継続しますので、今後の調査で集落の全容を解明していきたいと考えます。

文化財調査員 野中 裕貴



大量の縄文土器が出土した土坑

新しい手法から縄文時代の暮らしを探る

縄文文化には、南北に長く多様な自然が存在する日本列島で、何度も気候の変動を受けながら、1万年以上もの長い間、同じ範囲で同様の物質文化が続いていました。持続的な社会を目指すことが必要とされている現代において、この環境と調和した縄文文化は、大きな注目を浴びています。

では、縄文人はどのようにこの長い文化を続けることができたのでしょうか？その秘訣は彼らの暮らしに隠されています。

土器や石器といったモノや科学的な分析から、いかに縄文時代の生業や文化を復元していくのか。新しい研究成果をふまえつつ、縄文人の衣・食・住に隠された知恵と技術、文化の特徴について紹介します。

講師紹介

弘前大学人文社会科学部教授
かみじょう のぶひこ
上條 信彦氏

1978年長野県生まれ。2021年から現職。弘前大学北日本考古学研究センターセンター長。青森県考古学会会長。先史考古学を専門とし、主に縄文時代の食料加工技術をテーマに研究を行っている。著書に『縄文時代における脱穀・粉碎技術の研究』（六一書房）など多数。



プログラム

12:20	開場
12:50	開会
第一部 埋蔵文化財公開講座（1時間30分） 『新しい手法から縄文時代の暮らしを探る』 講師 弘前大学人文社会科学部教授 上條 信彦氏	
13:00 ↓ 14:30	14:30 休憩（15分）
第二部 発掘調査遺跡報告会（1時間25分） 令和5年度の調査概要（14:45～14:50） 参事兼調査課長 濱田 宏	
14:45 ↓ 16:10	報告1 山ノ神Ⅱ遺跡（花巻市）（14:50～15:15） 主任文化財専門員 杉沢 昭太郎
16:10	報告2 広表遺跡（北上市）（15:15～15:40） 主任文化財専門員 溜 浩二郎
16:10	報告3 折居遺跡（花巻市）（15:40～16:05） 文化財調査員 野中 裕貴
講評	
16:10	閉会
16:20	閉場

ご案内

施設見学 や 体験教室

埋蔵文化財センターでは様々な体験学習を行っております。お問い合わせやご相談を、お待ちしております。

ホームページも随時更新中!

イベント情報や遺跡情報などを掲載しています。是非ご覧ください。



編集・発行 (公財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185
TEL: 019-638-9001 FAX: 019-638-8563
E-Mail: i-maibun@echna.ne.jp
URL: http://www.iwate-maibun.jp/

印刷 東京カラー印刷株式会社